

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3170200772
法人名	社会福祉法人 地域でくらす会
事業所名	グループホーム 井上さん家
所在地 (電話番号)	鳥取県米子市富益町4564-5 (電話) 0859-25-0743
評価機関名	有限会社 保健情報サービス
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1 YNT第10ビル111
訪問調査日	

【情報提供票より】(20年6月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 4 月 1 日
ユニット数	1 ユニット
職員数	10 人
利用定員数計	9 人
常勤	5 人
非常勤	5 人
常勤換算	4.2

(2) 建物概要

建物形態	(併設) / 単独	新築 / 改築
建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	43,500 円	
敷金	有() 円	〇無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	240 円	昼食	400 円
	夕食	360 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(6月25日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低 74 歳	最高 97 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	おかだ内科クリニック、新納歯科
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設して丸7年のグループホーム井上さん家は米子郊外に位置し、周囲に住宅や福祉施設はあるが、畑や空地も多く見られる。デイサービスとの併設でグループホームとの壁が無く利用者間の交流が自由に行われている。開設時より利用者の立場に立った質の高いサービスを目指した支援が提供されている。この一年間は介護度の高い利用者が増え、求められるサービスの質の変化に意識的に取り組んでいる事が、ヒヤリングや見学、家族アンケート等から伺うことが出来た。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営推進会議が地域の代表や地域包括の担当者、家族、職員と、二ヶ月に一回開催されるよう努力されている。議題としてはホームのサービス内容や役割、生活状況の報告等多方面にわたる事が確認出来た。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員が行い、それを基に検討を重ねる方法で取り組み、全員で話し合いを通して一部にまとめられた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、防災問題について地域の協力体制や、夜間発生時の対策、避難経路の検討などの話し合いを行い、討議の結果、避難路の踏み台の設置やフェンスの工事など、具体的な取り組みが行われている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族が面会時等に意見や要望を言い易いように、雰囲気作りを大切にしている。家族アンケートでは、家族から安心の声や感謝の言葉が多く寄せられていた。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会にも加入し、地域活動に参加するように努めておられる。特に近隣の人との日常的な交流を大切にされている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人独自の理念に基づき、ホーム独自の理念が作られており分かり易い言葉で表現されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	開設当時から理念に基づき、地域に密着できるサービス提供を続けている。常に「サービスの質」を念頭に日々実践に取り組んでいる。また、毎日の朝礼やミーティングで日常行われているケアの取り組みや振り返りを「理念」に基づいて話し合う事で意識付けが行われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会にも加入し、地域の活動に参加するように努められている。特に近隣の人との日常的な交流を大切にされ、相談の電話や来所されれば、いつでも見学出来るように努められている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が自己評価に取り組み、それを基に検討を加える方法で自己評価を一部にまとめられた。常にサービスの向上を念頭に、評価結果を活かして具体的な改善に取り組む姿勢がヒヤリングで伺えた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催され、特に地域の自治会長、民生委員との防災対策については活発な話し合いがなされ、アイデアや気付きも頂きながら、サービスの向上に活かしている。ホームと地域の連携が強まっている事が確認できた。		地域住民や運営推進員からの要望で、「介護保険」について勉強会を開催するなどの取り組みも確認出来た。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの定期的な会合に参加して情報交換等を行っている。		事業所は市の担当者と折に触れ情報交換はしている。市の担当者も事業所を訪問して現場の実態を把握し、課題分析・解決に向け一緒に取組まれることに期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月発行される「井上さん家だより」に担当職員が近況報告や連絡事項を記入し郵送している。医療や体調変化に伴う必要時には、個々に合わせてメールや電話、手紙等で報告・相談し、面会の折にも、個々に合わせた話し合いが行われている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に、意見や要望を引き出せるように配慮がなされている。第三者への苦情窓口も設けてあり、重要事項説明書に明記しており、運営にも反映されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	移動・新規採用の職員については、充分研修期間を設け、利用者へのダメージが極力最小限になるよう配慮されている。この1年間は、退職者、法人内の移動は無かった。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修が定期的に行われており、職員は積極的に参加している。法人外研修も希望を取り、受講できるように配慮されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟しており、相互研修に参加している。他のグループホームとの交流や地域包括センターの勉強会にも参加し、サービスの質を向上させていく取り組みがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に訪問して頂き、面談の機会を多く持ち、次に来所して頂き、ホームの雰囲気を知ってもらい、職員や利用者事前と接する機会が持てるよう取り組みがなされている。デイサービスと併設していることから、馴染みの関係で入居される方も多い。		入所前の訪問見学時の利用者と家族との関りから記録に残し、ケアに活かせる様取り組みがなされている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に喜び、楽しみ、不安、苦しみなどを共有している。共に学び、支えあう関係・支援が行われている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望、意向など把握できるよう日々努めており、利用者本位に検討されている。また、把握が困難な方には場面作りや働きかけを大切に、1人ひとりの思いや暮らし方の希望・意向の把握に努められている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	より良い、利用者本位の介護計画を作成するために書式を変更するなどの取り組みが行われている。家族や職員間で意見やアイデアを出し合い、介護計画に反映出来る様に努めておられる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的なモニタリング、計画の見直しは行われており、突発的な状態変化にも随時計画を作成している。家族の意見、意向が「現状で良い」とか「今のままで十分」等のコメントが多く、計画に反映させる難しさが伺えた。	○	本人・家族の要望や意向の把握方法の見直し、チームで話し合う機会を作る等、更なるサービスの質の向上を目指し、現状に即した介護計画を作成したいという姿勢が伺えた事からも今後の取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスと自由に交流できるような柔軟な支援が行われている。また、利用者が入院中に職員が食事介助などの支援を行い、馴染みの関係が途切れないうような柔軟な支援が提供されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医が確保されている。協力医とは、常に連携が取れており2週間に1回の往診も行われ、症状や薬等についても気軽に相談できる関係・適切な医療が受けられるように支援がなされている事が確認できた。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	昨年度も看取りを行っており、本人・家族の意思確認を行い、状態の変化に応じてかかりつけ医、家族、職員で方針を共有できるよう支援がなされている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人のプライバシーや誇りを損ねることのないさり気ない言葉かけがなされている。個人情報の取扱いについても、全職員が誓約書にサインし、記録や個人情報保護の徹底に努められている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活パターンを把握されている。また、その日の過ごし方や希望を聞いて、希望にそった生活が送れるように支援がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、調理師2名を中心に作られており、味が良く、利用者は食事を楽しみにしている。調理師は利用者の好みを聞いて献立をたてている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応入浴日が定められているが、希望があれば、いつでも入浴できるよう配慮がなされている。また、拒否のある利用者にはタイミングを見ながら声かけし、入浴を楽しめるように支援されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の出来る力を引き出して役割や楽しみを見つける支援が行われている。利用者が役割で感じるストレスにも配慮がなされていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や本人の希望に応じて、散歩、買い物、ドライブなどが日常的に外出されている。利用者がテレビや新聞で得た情報で「行きたいな」「みたいな」等のつぶやきも職員は聴き漏らさず、「今から行きましょう」と柔軟な対応が記録やヒヤリングで確認できた。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関、居室、勝手口に鍵かけはなく、職員は常に利用者に気を配りながら見守りの支援がなされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的な訓練は行われている、運営推進会議で地域との協力体制が出来つつあり、災害に備え缶詰や水などの備蓄もされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量の画一的なチェックは行われていないが、一人ひとりの状況や習慣に応じた支援が行われている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は明るく清潔で、七夕飾りなどで季節感も採り入れら、居室や共有空間も適温に保たれており、居心地良く過ごせるように工夫されていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人家族と話し合っ、自宅から使い慣れた物や、仏壇などが持ち込まれている。清掃の行き届いた気持ち良い空間になっている。利用者が部屋に居ないときは空気入れ替えの為に窓が開けられており、さりげない配慮がなされていた。		